

A Series of Cult Classics No.7

ラス・メイヤー監督の最高傑作

# Beyond The Valley of the Dolls



Produced and Directed by **RUSS MEYER**



Distributed by CABLE HOGUE Co., Ltd.



溢れる70年ファッションとロックミュージック。そしてプレイメイト総出演！

最高に楽しめるセクスピロエーション・ムービー&底抜けに明るいビーチパーティ・ムービーの合体。

3人の女性ロックグループ“キャリア・ネイションズ”とそのマネージャー。彼らが生きるショービジネスの世界で、夜ごと繰り広げられるワイルド・パーティ。怪しく夜を彩るセックス、ドラッグ&ロックンロール！しかし、やがて彼らが迷い込むのは真の“ワイルド・パーティ”だった……。

マーチン・スコセッシをして「ラス・メイヤーが存在する為に、私はこのジャンルに挑戦する勇気がない」と言わしめたセクスピロエーション・ムービーの鬼才ラス・メイヤーの最高傑作!!



ラス・メイヤーは一度たりともバッド・フィルムを作らなかった  
—ジョン・ウォータース（映画監督）

昨年、輸入レコード店でひときわ目を引いたのがこのサントラ盤。ジャケットの死の香りをただよわせた妖しい美女達にはだれもが心を奪われたと思う。そのフィルムをついにこの目で見る事ができた。ラス・メイヤー美学の集大成ともいふべき映像、サイケ後期の爛熟と、目を見張るエロティシズムの嵐。パーティのトンネルをくぐると、そこは70年代だった！ストロベリー・アラーム・クロックのライブシーンなど、ロックファンにも見所は満載だ！

—サエキけんぞう

1970年/アメリカ映画/スコープ・サイズ、16mmビジョン1:2.40/108分/カラー/配給：ケイブルホーク  
監督：ラス・メイヤー 脚本：ロジャー・エバート 撮影：フレッド・J・ケネカンプ 音楽：スチュア・フィリップス  
出演：ドーリー・リード シンシア・マイヤーズ マーシア・マクブルーム エディ・ウィリアムス ジョン・ラザール デヴィッド・ガリアン エリカ・ギャビン ハジ  
ゲスト：ストロベリー・アラーム・クロック サンド・ハイバース



## ラス・メイヤーの宇宙 柳下毅一郎 Kiichiro Yanashita

ラス・メイヤーの宇宙には大まかに二つのものがある。右のおっぱいと左のおっぱいだ。その二重星のまわりをくるくるまわっている小さな惑星がラス・メイヤーである。メイヤーはいつも太陽の方に顔を向けている。元祖、女性は太陽であった。だがメイヤーにとっては女性は多たって太陽なのであり、自分はその栄光を讃えつづけるちっぽけな存在でしかない。もちろん、すべての女性が太陽だというわけじゃない。メイヤーにとっての神は大きなおっぱい、巨乳の持ち主だけである。ラスト90未満はおっぱいとは呼ばないらしく、この点ではかなり厳密だ。

メイヤーは女性を崇めている。だからつねに女性を下から仰ぎ見て仰角のアングルでとらえようとする。ラス・メイヤーの宇宙には、実際女しか存在していないのだ。メイヤーの映画ではつねに女性は強く、つねに男性をリードする。セックスについても——というセックスがいちばん大事なのだから、もちろんセックスは女性が支配するものである。ラス・メイヤーの女神たちはつねにセックスに貪欲で、進んで男をくねえこむ。その極地が『女豹ビクセン』のビクセンで、彼女は男だけでなく女も片っ端からベッドに引きこんでしまう。だからといって淫乱女と蔑まれるわけではない、男社会から罰をくだされるわけでもない。すべての男を下僕にしたがえ、ただ性を謳歌するのである。

ひたすら神を讃えつづける無私の姿勢は人を感動させずにおかない。メイヤーの信仰もまたしかり。彼の信仰告白ともいふべき映画はアメリカじゅうの、そして世界中の男たち

の心を深く揺りうごかした。男たちはメイヤーの預言をたどって女神の偉大さを知り、そして真実を啓いてくれたメイヤーへ感謝の念を捧げた。つまり何度も何度も映画館へ通って祈りを捧げたのである。信者が教会に感謝の献金を捧げるように。預言者メイヤーは男たちに福音を伝え、世界の男たちはそのメッセージを受けとめた。泰しく頭を垂れ、メイヤーの世界に足を踏み入れた。彼らはメイヤーの世界に新たなものを付けたし、そうやって映画は豊かになっていった。豊饒にふくれあがったメイヤーの世界はついにメジャー映画会社をも呑みつくした。『ワイルド・パーティ』こそはふくらんだメイヤー宇宙が産み落とした奇跡の実体である。

『ワイルド・パーティ』にはすべてが詰まっている。メイヤーが愛しつづけた女性たちは、メジャー会社の寸法にあわせてちょびりおっぱいのサイズが切り詰められてしまったが、それでも充分すぎるほどだしそうなくらいだ。女には強いが現代風俗はからさしいメイヤーのために脚本は若き映画批評家ロジャー・エバートが提供した。『ワイルド・パーティ』ではセックス以外に人生に必要なこと、ドラッグとロックンロールもメイヤーの宇宙に取りこまれたのだ。またある。この映画には強烈なヴァイオレンスが盛りこまれている。とてつもない不幸と、とってつけたようなハッピーエンドもある。あと、いったい何がいるというのだろう。完全な映画というものがあるとすれば、それは『ワイルド・パーティ』なのである。もちろん、男にとっての話だけだと。



ラス・メイヤー監督の最高傑作ついに登場！！ 特別前売鑑賞券 1,400円 好評発売中

10月3日(日)～10月15日(火)  
p.m.8:10よりレイトショー上映!!

ホワイト梅田泉の広場M-10右の上る東へ5分  
扇町ミュージアムスクエア  
☎06-6361-0088 www.oms.gr.jp

10月23日(土)～10月29日(木)  
p.m.8:40よりレイトショー上映!!

九条大宮 近鉄東山駅(JR京橋駅より西へ150m)  
京都市なみ会館  
☎075-661-3993